事	務事業	評価シート(事後評価)						
11 -	業コード 6-04-03	事務事業名 ファミリー・サ	ポート・セン	ノタ 一事	業	Ā	所管部課 子育て支 子ども家	援部 『庭支援センター
施	策コード 創2-2	施策名 子育て支援の促進			施策目標 子どもを安心して産み	・、健やかに育てられる	環境づくりを進めます。	
事務事業の概	事業内容 都基準の 育児の支	を支援するための環境を整備 な・実施方法等/補助の概要 の有無・対象者拡大の有無・ 支援を行う人(サポート会員)	: 補助団体の 上乗せ補助8) と育児の3	D概要 (E 頃・市単 支援を受	団体名・団体の活! !独補助額)等 ※! :ける人(ファミリ	動内容・補助金の 該当する予算事業 一会員) が会員に	活用内容等)、補助 名・節目を明記す。 こなり、地域の中で	る ご助けあいながら
要	員との訓)と夜間	をする、有償ボランティア活	会員に預ける 日祝日は¥1 祉総務費(こ	る場合、 ,000/1 ファミリ	平日の8:30~17 時間。	: 00までが\\$00/	⁷¹ 時間。平日早朝	
事業費デ―タ	財源内訳 所 人 臨総単二 の一 の一 の 一 要件時ココロール の 一 の 一 の 件 時間 コロール の 一 の の 一 の の の の の の の の の の の の の の	支出金・都支出金 債 他 (財源)	単位 千円 十円 千円 1 1 1 1 1 2 2 3 4 4 4 5 6 7 8 9 9 9 9 9 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 <	20年度 8,778 7,492 0 0 1,286 0.3 2,450 0 11,228	8,778 8,089 0 0 689 0,3 2,424 0 11,202	8, 952 8, 685 0 0 267 0, 3 2, 424 0 11, 376	8, 976 8, 129 0 0 847 0, 3 2, 450 0 11, 426
評価指	② ファミ 《指標の 子育てを	活動等指標 -ト会員養成講習会開催 ミリー会員登録説明会開催 D説明・数値変化の理由 など 主支援するサポート会員の登録機会として、会員登録説明	。 緑機会として	ている。				
評価指標の設定	ーサポー 次 ニ 利用作	成果指標ート、ファミリー会員数	目標値 実績値 実績値 実績値	単位 人 人 件 件	20年度 1, 463 4, 685	21年度 1,586 5,389	22年度 1, 783 5, 351	23年度 1,961 5,883
	サポート	D説明・数値変化の理由 など ト会員、ファミリー会員が増 対は、サポート会員が子育て	:》 えることで、 を必要とする	子育て	支援の援助関係がして活動した件数	が充実する。	ートセンターでの	対応を検討するよ

事	市民・関連団体等の意見 (アンケート結果など)	・			
業環境等	都内26市のサービス水準との比較 (平均値、本市の順位など)	□上■中□下	26市全てでファミリーサポートセンター事業を実施しているが、3市ではNPO 法人がファミリーサポートセンター事業と同内容で実施している。		
	代替・類似サービスの有無	■ 有□ 無	社会福祉協議会で実施している「あいあいサービス」は、保護者留守宅は対象外。ベビーシッターは利用料金が1時間2,000円前後で年会費等もある。		

事業コード 事務事業名 ファミリー・サポート・センター事業	所管部課	子育て支援部
06-04-03		子ども家庭支援センター

施策コード施策名	施策目標
創2-2 子育て支援の促進	子どもを安心して産み、健やかに育てられる環境づくりを進めます。

【一次評価】

B. CARLIERA						
	検証項目	ランク	一次評価	○検証項目、評価の判断理由 ○事業実施上の課題や今後改善すべき点等		
	事業の優先度	3	_ <u> </u>	仕事をする保護者が増加し、保育所へ入所できずに待機している世帯もあるこ		
	(緊急性)		□拡充	から、子育て支援施策として重要である。		
	事業の	3		市内では保護者不在で児童のみを養育するサービスとして保育園、一時保育、学		
A	必要性	3	■ 継続実施	童クラブ、子育て支援ショートステイ等があるが、短時間の利用や簡易な手続きで 利用できるファミリー・サポート・センター事業は必要な時に必要な時間で利用で		
	事業主体の	3		きるという手軽さがある。		
	妥当性	S	□ 改善・見直し	委託先である社会福祉協議会が講習会等の実施や相互の会員との調整を図ってい		
	直接のサービス	2	山以吉・元直し	THE PROPERTY OF LIVER AND THE ALAMANTA		
	の相手方	2		平成22年度の活動内容では、学童クラブへの迎えとその後の預かりが最も多く全体 の約25%を占める。次いで保育園への迎えとその後の預かりが約10%となっている		
	事業内容等の	2	│ □ 抜本的見直し │	。安心して保護者が働くことができる環境整備を担っていると考えられる。		
В	適切さ	2	□休止			
	受益者負担の	3				
	適切さ					
	市民ニーズの	2	□ 廃止			
	把握					
検	検証項目の見方 A∶事業実施の意義を検証する項目 B∶事業の内容・実施方法を検証する項目 C∶市民ニーズの反映度を検証する項目					

【二次評価】

	検証項目	ランク	二次評価	○検証項目、評価の判断理由			
	124 Han 24 Ha		7 141 12	〇事業実施上の課題や今後改善すべき点等			
	事業の優先度	2		保育事業及び学童保育事業を補完する身近な地域での子育て支援事業として認知			
	(緊急性)		□ 拡充	度が高い。しかし、認知度に比して利用実績は低迷しているので、登録地域、利用			
١.	事業の	2		状況の分析を行うとともに、他市の利用状況、費用などについても調査を行う必要			
A	必要性	2	□ 継続実施	がある。また、社会福祉協議会への委託については、内容の精査及び費用対効果についての検証を行うとともに、同協議会が実施している「あいあいサービス」との あり方を検証すべきである。			
	事業主体の	2					
	妥当性	۷	. ■ 改善・見直し				
	直接のサービス	1					
	の相手方	'	□ 抜本的見直し				
В	事業内容等の	1					
	適切さ	'	□休止				
	受益者負担の	2					
	適切さ						
	市民ニーズの	1	□ 廃止				
	把握	'					
検	検証項目の見方 A∶事業実施の意義を検証する項目 B∶事業の内容・実施方法を検証する項目 C∶市民ニーズの反映度を検証する項目						

【行革本部評価】

行革本部評価	評価の判断理由及び事業実施上の課題や今後改善すべき点等
□拡充	本事業は、保育事業および学童保育事業を補完する身近な地域での子育て支援事業として有効である。しかし
■ 継続実施	、認知度は高いものの利用数は伸び悩んでいる状況にあり、引き続き利用の向上に努められたい。 なお、二次評価で指摘されている社会福祉協議会の「あいあいサービス」事業との関係については、重複する
□改善・見直し	内容の有無等を精査し、必要に応じて「あいあいサービス」の内容見直しに向けて社会福祉協議会と調整された
□ 抜本的見直し	V '₀
口休止	
□ 廃止	